

平成26年9月5日

豊田市議会議長 都 築 繁 雄 様

教育次世代委員会
委員長 吉野 博子



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成26年7月29日(火)～31日(木)
- 2 派遣先 29日(火)…三重県亀山市
及び内容 「まちづくりと調和のとれた学校施設」
30日(水)…京都府京都市
「京都まなびの街生き方探究館」
31日(木)…石川県金沢市
「学生のまち金沢の推進」
- 3 派遣委員 委員長 吉野 博子
副委員長 原田 勇司
委 員 光岡 保之 岡田 耕一 梅村 憲夫
太田 博康 安藤 康弘 山口 光岳
田代 研
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 / 鈴木 祥宏、東郷 公彦

視察報告書様式【1】

委員会名	教育次世代委員会	委員名	吉野 博子
視察日時	平成26年7月29日(火) 午後1時15分～午後3時15分		
視察先・概要	三重県亀山市 人口：約5万1千人 面積：190.91km ²		
視察内容	まちづくりと調和のとれた学校施設(関中学校)について		
選定理由	<p>「亀山市立関中学校」は鈴鹿国定公園に隣接し、旧東海道の関宿の伝統的建造物群保存地区を有する場所に平成23年3月に建築された。</p> <p>「まちづくりと調和のとれた学校施設」「木のぬくもりを感じる校舎」を基本コンセプトに、地域住民・伝統・学校が一体となって学校づくりが行われた。この取組は今後の本市において参考となると判断したためである。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市においては、足助地区が平成23年6月に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、古い街並みの保存事業を行っている。また、学校と地域の人々が一体となることを目的に地域ぐるみの学校づくりを実施し、豊田市版コミュニティスクール構想を展開していく。今後、さらに積極的な活動を取組にあたり他市事例などの研究が必要である。</p>		
視察概要	<p>① 亀山市役所において、関中学校の事業概要について説明を受ける。 (説明資料参照)</p> <p>→耐震調査結果から改築が必要となり、上記基本コンセプトのもと、プロポーザル方式で国内(県内産中心)木材を多用する提案の設計提案の(株)石本建設事務所に決定</p> <p>② 現地視察</p> <p>関中学校に移動し、中川校長先生のご案内により、校内視察及び学校の様子や生徒の生活、地域の方々との関係づくり等説明をいただいた。</p>		
評価とその理由	<p>木造校舎として、建築基準の関係上使用できない箇所以外は、100%国内産材、そのうち50%が三重県産材であるということは、市域の70%以上を森林が占め、森林政策が喫緊の課題である豊田市において大変参考となる。</p> <p>また、地域の歴史・文化との協調の観点から、中学校の設計においては、足助地区などの参考にもなる。</p>		
本市に反映できること	<p>現在、豊田市においても公共施設への木材使用が積極的に展開されているものの、上記評価のような観点より、更に豊田市産材の木材利用について加速できるものと考える。</p>		
その他 (意見・課題など)	<p>亀山市の説明によると、国内産材100%使用などの提案は、(株)石本建設事務所からのものであったとのこと。</p> <p>豊田市内の公共施設への木材使用をさらに加速させるために、同社へのヒアリングなどをするのも一考ではないか。</p>		

視察報告書【2】

委員会名	教育次世代委員会	委員名	吉野 博子
視察日時	平成26年7月30日(水) 午前9時30分～午前11時30分		
視察先・概要	京都府京都市 人口：約147万4千人 面積：827.90km ²		
視察内容	京都まなびの街生き方探究館について		
選定理由	<p>「京都まなびの街生き方探究館」は、廃校となった旧京都市立滋野中学校を再活用し、平成19年1月に設立された。京都市内の児童・生徒を対象に職業体験や生活設計体験、モノづくりに関する展示学習・工房体験を通じて、将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を養うキャリア教育の場として京都市教育委員会が運営している。この取組は今後の本市において参考となると判断したためである。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市においても、次世代を担う子どもたちがものづくりや科学の体験を通して、楽しさ、難しさ、大切さを感じ、ものづくりや科学に対して興味を深め創造性を育むため、平成21年度から「ものづくりサポートセンター」を設置し、ものづくり教育の積極的な活動を実施している。ただし指導員の確保、体制整備などの課題においては今後改善していく必要がある。</p>		
視察概要	<p>現地において、概要説明、学習内容の説明ののち、実際の出店場所などを見学した。(説明資料参照)</p> <p>→平成19年「京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク推進事業」「京都こどもモノづくり事業」を推進すねための体験型学習施設として設置。</p> <p>年間2万人を超える小中学生が来館し、職業体験や家計体験、ものづくり体験などのキャリア教育に必要な体験学習を展開。</p> <p>プログラムは、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本のものを導入。</p>		
評価とその理由	<p>「民間学校と社会がかい離しており、卒業してから生かされていない」という問題意識を表に出して、議論したことがまずもって評価に値する。</p> <p>地域・企業を含めた社会全体での教育という観点、廃校活用という観点においても、豊田市の直面する課題でもあり、この取り組みは大いに参考となる。</p>		
本市に反映できること	<p>モノづくりのまちを標榜する豊田市として、民間企業への働きかけも合わせて、豊田市版のプログラムの導入の検討をすべきと考える。</p> <p>また、現モノづくり教育の進化型として検討する方法もある。</p>		
その他(意見・課題など)	<p>公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本の教育プログラムについて勉強することも良いのではないか。</p>		

視察報告書【3】

委員会名	教育次世代委員会	委員名	吉野 博子
視察日時	平成26年7月30日(水) 午後3時30分～午後4時30分 平成26年7月31日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
視察先・概要	石川県金沢市 人口：約46万2千人 面積：468.22km ²		
視察内容	学生のまち金沢の推進について		
選定理由	金沢市では、平成22年6月に、学生のまち・金沢の推進母体となる学生組織「金沢まちづくり学生会議」を発足した。学生がまちを学びの場、交流の場として、まちに集い、市民と交流し、地域における活動等に取り組んでいる。また、市民、自治会、教育機関、事業者及び市が一体となって学生の地域活動等を支援することで、学生と市民との相互交流及び学生とまちとの関係が深まり、にぎわいと活力が創出されるまちを目指している。この取組は今後の本市において参考となると判断したためである。		
豊田市の現状と課題	本市においては、青少年健全育成の観点での取組は青少年の非行防止活動が中心に進められてきた。最近では次世代を担う青少年が地域活動、ボランティア活動に積極的に貢献できるよう青少年センターを中心に活動を行っている。また、本市の近隣大学に通う学生で構成される「学生によるまちづくりの会」とその支援団体「NPO 豊田てらこや」が積極的に活動を行っている。今後、さらに活動を活発に行うにあたっては、学生、地域、行政の連携が必要となってくる。		
視察概要	<p>① 現地視察 →視察先の都合で、予定日に現地を視察できないとのことであったため、前日に事前の現地視察を実施。歴史的価値のある町屋を整備し、学生たちのアジトとして活用。</p> <p>② 概要説明 →市内に数多くの教育機関があることより学都としての認識も高く、その一環として平成22年「金沢市における学生のまちの推進に関する条例を施行。「金沢学生のまち推進会議」を設立するなど、市民との交流などまちづくりに積極的に取り組んでいる。</p>		
評価とその理由	学生に主体的にまちづくりを考えてもらうということで、自由度の高い活動支援をしていることは大いに評価できる。		
本市に反映できること	<p>新青少年センターでの活動メニューなどに遊び感覚を持たせ、積極的にまちづくりに参画できる環境づくりをすること。</p> <p>市民との連携に関して、わくわく事業、地域予算提案事業などに学生が積極的に参加できる仕組みづくり。(特別枠もありか)</p>		
その他 (意見・課題など)	<p>歴史的価値のある施設をフリーで学生たちに使用させることができるだけの腹のくくり方ができるか?</p> <p>「場所をアジト」「学生をヤツラ」と呼べるだけの人間関係を構築した金沢市の職員さんには、学生に対する愛情を感じる事ができた。このような職員育成も豊田市の課題。</p>		